

世界の動きがわかる!



Somalia 内戦の行方

激動のソマリア、内戦と対テロ戦争

ソマリアは世界でも珍しい民族的同質性の高い国だが、1991年以来、武装勢力間の対立で分裂状態にある。2004年に隣国ケニアで暫定政府が誕生したが、06年6月にイスラム法廷連合(UIC)が首都を制圧。UICは12月以降の政府軍とエチオピア軍の攻撃で首都と南部の支配地域から撤退したが、なお「聖戦」を叫び情勢は深刻化している。

小田 英郎 一文
(慶應義塾大学名誉教授)
text by Oda Hideo

【破綻国家への道】

ソマリ民族が住民の大部分を占め、イスラム教徒(シリア派)が約90%、公用語はソマリ語。これをみればソマリは単一民族国家にほぼ近く、国としての凝集性も高いと考えがちだが、実際にはポスト冷戦時代初期以降、多数の武装勢力が対立を続け、今なお中央政府が確立されず、「破綻国家」状態にある。これは、ソマリア社会が氏族(クラン)を軸に構成されており、武装勢力各派も多くが氏族を基盤にしていることによる。

分業要因をはるかに上回っていた。植民地時代のソマリアは北部が英領、南部がイタリア領であったが、1960年の独立時に、この両地域が統合してソマリア共和国を樹立したのも、ナショナリズムの力が大きかったからである。その後も、同国は大ソマリア主義を唱え、周辺諸国に散在するソマリ民族の居住地域の統合を目指して、領土紛争を繰り返してきた。

しかし、大ソマリア主義は実を結ばず、国づくりも容易に進まなかったために、次第に国内の不満が増大していった。69年のクーデターで成立したシアド・バーレの社会主義政権も成果をあげ得ず、80年代以降は反政府運動が頻発し、時に内戦状態に陥るなど、分裂傾向が目立つようになった。

冷戦終結直後の91年、シアド・バーレ政権は武力で打倒され、以後はアイディード派、アリ・アト派ほか多数の武装勢力の離合集散の中で、中央政府は事実上機能不全となった。この間、91年に北部(旧英領)が「ソマリランド共和国」として独立を宣言し、98年には北東部の「プントランド」も自治を宣言するなど、「破綻国家」状態は一層深刻化した。

なお、国連は98年にアメリカ海兵隊を主力とする平和執行部隊を派遣したが成



【内戦とテロの懸念】

2004年10月、隣国ケニアでアブドラヒ・ユスフ大統領(プントランド前大統領)のソマリア暫定政府

が発足したが、06年6月にはイスラム原理主義武装勢力「イスラム法廷連合」(UIC)が首都を制圧し、さらに南部地域を実効支配下に置いた。同年12月下旬、暫定政府軍は、イスラム勢力の拡大を懸念するエチオピアの軍事支援を得て本格

的な攻撃を開始し、07年1月初旬までにUIC勢力を首都モガディシオおよびソマリア南部地域から駆逐した。国際社会はエチオピアに批判的だが、エチオピアは「国際テロとの闘い」を理由に軍事支援を続け、アメリカ軍もUICとアルカイダの結び付きを理由に、1月前半、ソマリア南部のケニアとの国境地帯を3度にわたって空爆した。

兵力温存を図って撤退したUICは、「聖戦」の呼び掛けとともにゲリラ戦への転換を声明しており、暫定政府も戒厳令を布告、内戦の行方は予断を許さない。アフリカ連合(AU)は8000人規模の平和維持軍の派遣を決議し、それを受けてエチオピア政府は、1万2000人〜1万5000人の派遣部隊を1月23日以降に撤退させると声明した。エチオピアと対立関係にあるエリトリアはUICを支援しており、ソマリアが国際テロの温床になることを危惧するアメリカのさらなる関与も含め、ソマリア紛争の「対テロ戦争」化、国際紛争化が懸念される。日本がソマリアの平和構築、維持に貢献できるのは、「ソマリア再建会議」が実効性のある青写真を作成し、同国が破綻国家状態を脱してからのことになろう。

Column

聖戦叫ぶ「イスラム法廷連合」とは?

イスラム法廷連合(Union of Islamic Courts: UIC)は、ソマリアのイスラム原理主義組織。もともとは厳格なイスラム法の施行を主張する聖職者らの司法組織で、当初は5つの「法廷」の連合体であった。2004年に同連合の最高評議会が設立され、その後拡大して06年6月までに14の「法廷」から構成されるようになり、「イスラム国家の建設を目指す」ことを宣言。この間、05年初めには5,000人の民兵を持つ武装組織に成長してほかの武装組織を凌駕した。

06年6月に首都を制圧し、南部地域をも実効支配のもとに置いたが、暫定政府軍を支援するエチオピア軍との戦力の差は大きく、同年12月下旬以降2週間前後の間に、首都および南部の支配地域から撤退し、以後ゲリラ戦に入ると声明。最高指導者ハッサン・ダヒル・アウエイシ師はアルカイダとつながりがあるとされる。